

令和 6 年度新潟大学法学部
第 3 年次編入学・転部試験問題
専門科目（法学）

- (注意) 1. 4つの設問のうち、2つの設問を選択して
解答すること。
(3つ以上の設問に解答した場合は採点の対象
外とする。)
2. 設問ごとに別の解答用紙に解答すること。

令和6年度新潟大学法学部
第3年次編入学・転部 試験問題

科目名 法学

設問 1

以下の(1)及び(2)について、答えなさい。

- (1) 法的強制の正当化根拠に関するいわゆる「(他者) 危害原理」、「不快原理」及び「リーガル・モラリズム」の内容、及び、これらの原理・考え方が「法による道徳の強制は正当化されるか」という問題に対していかなる結論を提示するかについて、それぞれ簡潔に説明しなさい。
- (2) 動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動物愛護管理法」という。）は動物虐待関連犯罪を定めているところ、その処罰根拠はいかなる点に求めることができるか、自身の見解を述べた上で、その見解がいかなる原理・考え方に立脚するものかを簡潔に説明しなさい。

令和6年度新潟大学法学部
第3年次編入学・転部 試験問題

科目名 法学

設問 2

日本国憲法第14条1項「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」をいかに解すべきかについて、「平等」の観念について述べたあと、学説や判例に触れつつ、論じなさい。

令和6年度新潟大学法学部
第3年次編入学・転部 試験問題

科目名 法学

設問 3

2016年3月、Aは交際していたXの実印等を勝手に持ち出して、Xが所有する甲建物について、XA間の贈与契約を原因とする不実の所有権移転登記をXに無断で行った。翌4月にこの事実気が付いたXは、Aを激しく責め立てた。Aはすぐに謝罪し、A名義の不実の所有権移転登記を抹消して、X名義に回復することを約束した。翌日、XA両名は抹消登記の手続のために司法書士事務所を訪れたが、登記名義の回復には多額の費用がかかることを知らされ、この費用をすぐに工面することが難しかったため、しばらくの間、登記名義の回復を先送りすることとした。その後、2018年4月にXAが婚姻したこともあり、結局、甲の登記名義はAのまま放置された。

Xの浮気のために、2022年ごろからXAの夫婦仲は著しく悪化した。そこで、Aは離婚後の自分の生活費を確保しておこうと思いたち、2023年4月に甲をYへと売却し、登記名義もYへと移転してしまった。Yは甲の登記名義に関するXA間の一連の経緯についてはまったく知らなかった。また、Yへの甲売却に際して、AはYに「甲は7年ほど前に当時から交際していた配偶者Xから譲り受けたものであり、その旨の自分への所有権移転登記もすませてある。」と説明していた。

XがYに対して甲建物の所有権を対抗できるかについて論じなさい。

令和6年度新潟大学法学部
第3年次編入学・転部 試験問題

科目名 法学

設問 4

以下の問題に答えなさい

①未遂犯の処罰根拠と、それぞれの処罰根拠論から帰結される刑法 43 条「着手」の解釈について論ぜよ。

②X は、新生児である A の母親であるが、育児のストレスに耐えかね、A の殺害を決意した。しかし自らの手で殺害するのは怖かったため、A に授乳をせず衰弱死するに任せることにした。それまで X は 3 時間おきに A に授乳をしていたが、2023 年 12 月 16 日 13:00 に授乳したのを最後に、X は A を放置することを決心した。最後の授乳から 30 分後の 13:30、A は泣き始めたが、X はこれを無視した。A がその後も泣き続けたため、X の隣の部屋に住む B は子供の泣き声が止まないことを不審に思ったため児童相談所に通報し、駆けつけた相談員 C が 14:00 に A を保護するとともに警察に通報し、X は逮捕された。X の罪責を論ぜよ。